



錦織 圭 全米 2014 アフロ©

崎山 修 (WOWOW) 広報部長

みん
な
の
こ
ろ
う
民
放
史

題
字
中
川
順

2014年9月9日、全米オープンテニス決勝の舞台に錦織圭が立った。日本人選手の全米ベスト8は92年ぶり、ベスト4は96年ぶり、そして決勝戦進出はアジア人初の快挙に日本中が沸いた。錦織は全米オープンの直前に右足の親指を手術している。まともな練習は大会前日になり、出場するかは初戦当日との発表に、誰もがリタイアを予感した。ところが、大会が始まってみると錦織は何事もなかったかのような顔で、ここぞという所で攻め入る巧みな展開で勝利を重ねていく。9月2日宿敵ラオニッチとの4回戦は目付も変わって深夜に及び、4時間を超える接戦を制した。錦織はこの後の記者会見で「決勝に行くまでは素直に喜べない。勝てない相手はもういないと思う」と涼しげに言い放った。ここまで酷い腰痛に襲われて、試合中に何度もトレーナーを入れながら、フルセットを2度戦い疲労は極限だっただろう。この後には、準々決勝で2014年の全豪オープン覇者バブリンカ、準決勝は世界ランク1位ジョコビッチか8位マレー、決勝戦のドローには

2位フェデラーかチリッチと、強豪たちが控えている。そのなかで出たこの発言に誰もが驚き、錦織の成長を示した瞬間だ。

ここから錦織の期待は一気に日本全国で高まった。翌日、当社には地上局各社からニュース用の映像要請が殺到し、活躍シーンの度に掲示される「映像提供WOWOW」のテロップは、当社のことを知って頂くきっかけにもなった。

私は、WOWOW開局前の1990年に入社し、スポーツ番組の調達、制作統括を担ってきた。テニス番組は、立ち上げから昨年4月広報部に異動するまで、のべ17年間携わった。

見渡せば現場で生みと育ての両方を経験してきた社員は私だけになり、本稿の執筆を仰せつかることになった。当社のテニス放送を軸にしながら振り返ってみたい。

WOWOWは日本初の民間衛星放送局として1991年4月に開局。

WOWOWに付く3つのWには、World Wide Watchingの意味が込められている。

編成方針は、世界から良質な番組を取り揃えて特色を出そうと「ワールド・エンターテインメント・ステーション」をコンセプトに「5S」を掲げ、Screen Sports Sound Stage Shopping に絞った。

それぞれ熱心なコアファンをターゲットに各ジャンルを専門店化させて、視聴料を払って頂くに値するチャンネルを目指した。

映画は主要メジャースタジオと契約を結び、劇場公開後1年から1年半でハリウッド映画を最も早く、大量にテレビで楽しめるようになった。洋画ファン待望の字幕放送も大きな話題になった。

開局プロモーションは、ハリソン・フォードを起用して大々的なキャンペーンを張った。音楽は海外アーティスト、サザンオールスターズのライブが話題になり、ステージはブロードウェイ・ミュージカルから日本の小劇場まで幅広く揃えた。

スポーツはボクシングのヘビー級王者マイク・タイソンをはじめ、年間約100試合の世界戦を放送し、『エキサイトマッチ』は現在も続く当社の最長寿番組。サッカーは中田英俊が渡欧する前に

セリエAを獲得し、欧州サッカーのブームを先取りした。

他にも、デビット・リンチ監督のテレビドラマシリーズ『ツインピークス』の大ヒットが開局に花を添え、初年度に77万件を集めることができた。

WOWOWのテニス放送は1992年1月の全豪オープンから始まる。

この年は、エドバーク、クーリエ、ベッカー、マッケンロー、女子はセレス、グラフ、サバティエニ、そして15歳の天才少女カプリアティの初出場が注目され、日本選手は松岡修造、伊達公子、沢松奈生子の本戦出場で期待が高まっていた。

まず、編成と大会14日間の放送枠をどう取るかでもめた。私は大会全日程の生中継を要請したが、編成は、最初10日間は深夜のハイライト放送、準々決勝から決勝の4日間を生中継の判断。テニスは終了時間が分らず、長尺を割いても途中終了になるから、編集して多くの試合を見せようという理由だ。少ないテニスファンより、

映画目的で加入した多くのお客様に配慮した形になった。

放送初日からカスタマーセンターの電話が鳴り続け、テニスを楽しみにする方からは「ハイライトでは試合展開が分からない。放送終了が近づくにつれ、スコアから勝敗予測が容易につく。生放送でなければ視聴料を払う意味はない」と痛烈なパンチ。一方、映画ファンから「帰宅して映画を見るために入ったのに、テニスが長い！」と両者からお叱りを受けた。

グランドスラムの男子は5セットマッチで行われ、フルセットにもつれると5時間に及ぶこともある。複数のコートで行われる試合を、放送開始に合わせる編集は時間との勝負だった。時には最終セットをケツ合わせで間に合わせることもあり、実況したベテランアナウンサーからは、「5時間喋って、使うのはたったこれだけか」と叱られる。

短い枠に世界注目の男女選手だけでなく、松岡、沢松、伊達の試合やダブルスの情報まで、あれもこれも詰め込んだ結果、誰も満足しない放送になってしまった。視聴者の怒り、出演者の不満、

そして編集に暮れるスタッフの疲労も日々増えるばかりで、現場の雰囲気は悪くなり、本当に辛い10日間だった。

WOWOWはこの年に全仏オープン、全米オープンも獲得し、グランドスラム3大会を揃えたものの、編成枠は全豪と同様に最初の10日はハイライト放送と変わらず、これがアナログ放送の終わる2000年まで続くことになる。

最初の全豪から、メルボルンに実況・解説、制作・技術陣を派遣して、独自の取材情報を日本に伝えようと意気込んだ。ところが、主催者に取材申請をしても一番後に回されて時間がかって仕方ない。会場内の撮影も地元局や欧米局に許されることが、当社はこことく理由不明の制約を受けた。ドイツ語圏の放送局からは「WOWOW(ボウボウ)って動物の鳴き声か？」と冷やかされ、新参者の試練を味わった。

早く国際放送の村で仲間として認めてもらわないと何も進まなくなると思っていたのが寿司パーティ。世界で人気の寿司を切り札に



会場に設置した寿司カウンター

懐に入る作戦だ。

決めたからには本格的にやろうと、メルボルンで開業する日本の職人と呼んでテレビ村の中に長机を並べ即席の寿司カウンターをこしらえた。WOWOWの心意気を盛り込んだ英語の会社案内も作り、全員でWOWOWロゴの入った揃いのTシャツを着てもてなそうと張り切った。

始まってみると、たちまち大行列に膨れ上がった。30度を超える真夏の屋外でショーケースの水が溶けるよりも早く寿司は無くなり、

スタッフ用の弁当や菓子まで出しながら、私たちは必死でWOWOWの志を説いて回り、関係者は熱心に耳を傾けてくれた。

早くも寿司効果は翌日から表れて、主催者はどんなことでも笑顔で迅速に対応してくれるようになった。取材はスムーズに運んだ。各国のテレビクルーは乾いたサンドイッチを持って来て我々の弁当と交換して欲しいと言う。どう見ても割に合わなかったけれど、それの良い潤滑油になって友好関係が生まれ、私たちは国際放送局の仲間入りを果たすことができた。

ところが、92年は日本経済が氷河期に入る。WOWOWは8月に100万件を突破して順風満帆にみえたが、デコーダの逆ザヤ問題(加入料に対し、デコーダの調達コストが上回る事態)が経営を大きく圧迫し、経常赤字が200億円に達してしまふ。

93年には番組費を含む大幅なコストカットが通達され、テニス番組も出演者、制作スタッフの現地派遣は却下され、東京でオフチュール放送になった。

大会情報を日本に送るスタッフ

の派遣も認められず、実況・解説者の頼りは国際映像だけ。試合が長びくと話題が尽きて放送中に黙ってしまい、マスターから放送不体裁と警告されることもあった。

94年に入っても制作費の切り詰めは続いたが、お客様の声に応える形で小規模ながら出演者、スタッフの現地派遣が認められた。

この年、全豪では伊達公子の準決勝進出に沸き、ニュース映像を在京全局に配信して各社に喜んで頂いた。

現場のランチはカップヌードルかサンドイッチ1個だけの厳しい環境だったが、出演者やスタッフは、現地から中継する意味を理解し、和を保って日本に伝え続けてくれたことは有り難かった。

95年1月の阪神淡路大震災では全豪に出場中だった沢松奈生子の実家が全壊し、家族の無事を我々が本人に伝えるパイプ役になった。棄権して帰国しようかと迷っていた沢松に家族は「大会を戦い抜くことが皆の元気につながる」

と出場を後押しして、それからの沢松は強い精神力を発揮して準決勝まで上り詰め、沈んでいた日本に活気を与えてくれた。

2001年1月号プログラムガイド
全豪表紙

95年度に加入者は200万人を突破し、62億円の黒字を計上してようやく債務超過を脱した。

当時の佐久間社長は社員に向けて「面会謝絶の集中治療室から一般病棟に移った。早く累積損失をゼロにして退院を目指す」と病院に例えて喜びと共に手綱を引き締めた。翌年7月にサッカーのヨーロッパ選手権(EURO96)、11月のタイソン対ホリフィールド、年末年始の「100時間映画大放送」などがけん引し、その後も加入を伸ばすことができた。

2000年12月のBSデジタル

放送の開始によって、SD 画質ながら 3 チャンネルのマルチ運用でバリエーションに富んだ編成が可能になった。早速 2001 年 1 月の全豪初日からシングルスの生中継枠が生まれただけでなく、要望の多かった日本人ダブルス、そして新たにナイトセッション(全豪と全米は夜にセンターコートの客を入れ替えて注目カードが組まれる)の生中継も始まった。

マルチ編成時は SD 画質になるので、高画質で観たい映画ファンの不満は残ったけれど、テニス放送は大きな前進となった。

話は逸れるが、これまで海外の現場で国際事件にも巻き込まれた。1996 年 6 月、イングランドで開催されたサッカーのヨーロッパ選手権では、マンチェスターでアイルランド共和国軍(IRA)による爆弾テロが発生し、市内の半径数百メートルが全壊し約 200 人が負傷する事件が起きた。私たちはドイツ対ロシア戦を中継するため乗り込んでいたが、幸いにも IRA は警察に予告していたため避難指示が出され難を逃れた。暫く出演者達とはぐれて郊外



IRA爆弾テロによるマンチェスター ビルの窓全壊

を流浪したが、無事に再会し生中継を行うことが出来た。後の報道で、もし無差別テロだったら数万人の死傷者が出ていたと知り身震いがした。

2001 年 9 月 11 日ニューヨークを襲った同時多発テロは、全米オープンテニスが終わった 2 日後のこと、1 機目が衝突した 8 時 46 分は、スタッフ 14 人が帰国のためホテルから空港に向かうタイミングだった。その一人が部屋を出る際に撮った写真が痛ましく残る。

メンバーはタクシー数台に分乗して移動を始めたが、道は封鎖さ

れて分散してしまふ。

その頃、私は赤坂で飲んでいたが、ニュース速報を見た同僚の一人報で事を知り慌てて帰社した。スタッフの携帯に何度かけても繋がらない。時々かかる有線電話を頼りに皆の無事を確認し、帰国便の手配など全員が帰国するまで 5 日間本社に泊まり対応した。



9.11 同時多発テロ

話を戻す。WOWOW は 2008 年からウィンブルドンを始めることができた。地上波は NHK が放送する形だが、これでグランドスラム 4 大会が揃うことになった。更にデビスカップ、フェドカップそしてジャパンオープンを揃え、テニスファンに 1 年を通じて楽しんで頂ける環境を整えた。

そして、2011 年 10 月からはフルハイビジョン 3 チャンネル放送が始まる。例えばグランドスラムは、センターコートを生放送しながら、別のチャンネルで他の試合を同時放送することが可能になった。これで映画ファンを怒らせることもない。

更に 2012 年 7 月からは、加入者は無料で利用できる「WOWOW メンバーズオンデマンド」を開始した。

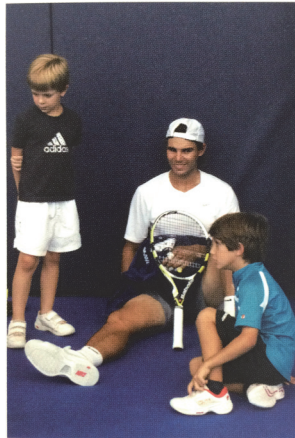
これを第 4 のチャンネルと位置付け、放送以外の試合も増やして、携帯やタブレットを使って観たい試合を好きな場所で視聴することが可能になりサービスの幅が広がった。

今回の全米オープン決勝戦は、日本で朝の通勤・通学の時間帯と重なったので、その移動中に錦織の応援ができたと多くの加入者に喜ばれた。

こうしたチャンネルの拡充に合わせて、テニス、ボクシング、サッカー等のほか、新たに男子プロバスケットボール NBA、全米女子プロゴルフツアー LPGA を投入してスポーツジャンルを広げた。また、各競技の魅力を知って頂く

きっかけを作り、視聴ファンを広げようと関連するスポーツドキュメンタリーの制作にも積極的に取り組んだ。

これまで23年グラندスラムのコートサイド、プレスインタビュに足繁く通いながら、徐々に選手側も我々の独自取材に応じてくれるようになり、ついに2011年ラファエル・ナダルが世界で初めてWOWOWにドキュメンタリー撮影の密着を許してくれた。



『ノンフィクションW『太陽の男ラファエル・ナダル〜No.1テニスプレーヤーの原点〜』』

ラファエル・ナダル ドキュメンタリー

WOWOWのスポーツ放送は、開局してから20数年ずっと守るポリシーがある。それは、特定選手やチームに偏った応援放送をしないことだ。日本

選手の勝敗に一喜一憂する「頑張り日本」を叫ぶ放送ではなく、両者、両チームに目を注ぎ、技、心理の移ろい、駆け引き、潮目の変化を大切にしながらお客様が観戦の醍醐味を体感できる放送を心掛けていく。

これまで誰も知らなかったナダルのトレーニング風景や素顔の数々は大きな反響を呼んだ。作品は民放連賞の特別表彰部門、青少年向け番組で優秀を頂いた。この番組をプロデュースした社員が異動で最後のテニス現場になった時、ナダルはわざわざ彼を手招きしてハグしながら労いの言葉をかけて

くれたそうだ。放送人冥利に尽きる。他にもジョコビッチ、錦織、サッカーではメッシ、ロナウド等の錚々たるアスリートのオリジナルドキュメンタリーを残すことができた。

してもその後の視聴利用は下がらない。

営業現場は、錦織が負けると加入に響くからとため息が漏れるが、放送はそれに左右されず決勝に向かってピークがくる。

もう一つの確信は少し言いにくい。実は、90年代前半に経営を立て直していた頃、幹部会議で、先々テニスを止めようかと狙上に載ったことがある。その時に、テニス放送でお客様から日々寄せられた「ハイライトではなく生放送を」、「もっと世界の選手を見せて欲しい」という期待の声が、「こうした熱心なお客様に答えなければWOWOWに未来はない」という会社の確信になり継続した経緯がある。ずっとお客様の声に耳を傾けて心を通わせてきたことは、今のWOWOWを支える大きな財産と言えるだろう。

今回、全米オープンで準優勝した錦織からWOWOWに大きな注目と共に新しいお客様をプレゼントしてもらった。社内ではこの新しい出会いを長く深めていくよう気を引き締めている。

今年6月、和崎社長は「202

0年を第三の創業と位置付け、有料衛星放送局から総合エンターテインメント企業への成長を目指す」と発表した。エンターテインメント感覚の高いお客様とコミュニケーションをさらに深めて、強固な会員組織を築こうと、すでに若い社員が中心になって準備を始めている。

最後に私見をお話し頂こう。グラッドスラム4会場(メルボルン、パリ、ロンドン、ニューヨーク)に共通する風景が印象に残っている。それは、キラキラと眼を輝かせた子供たちが大声で応援している姿だ。スポーツもメディアも若い層の熱狂がなければ未来は危うい。現在WOWOWは50〜60代をメインターゲットに様々な施策を打っている。それと同じ位、今から若い世代をWOWOWファンにしていく種まきも大切だ。



筆者

「資料提供」WOWOW、アフロ